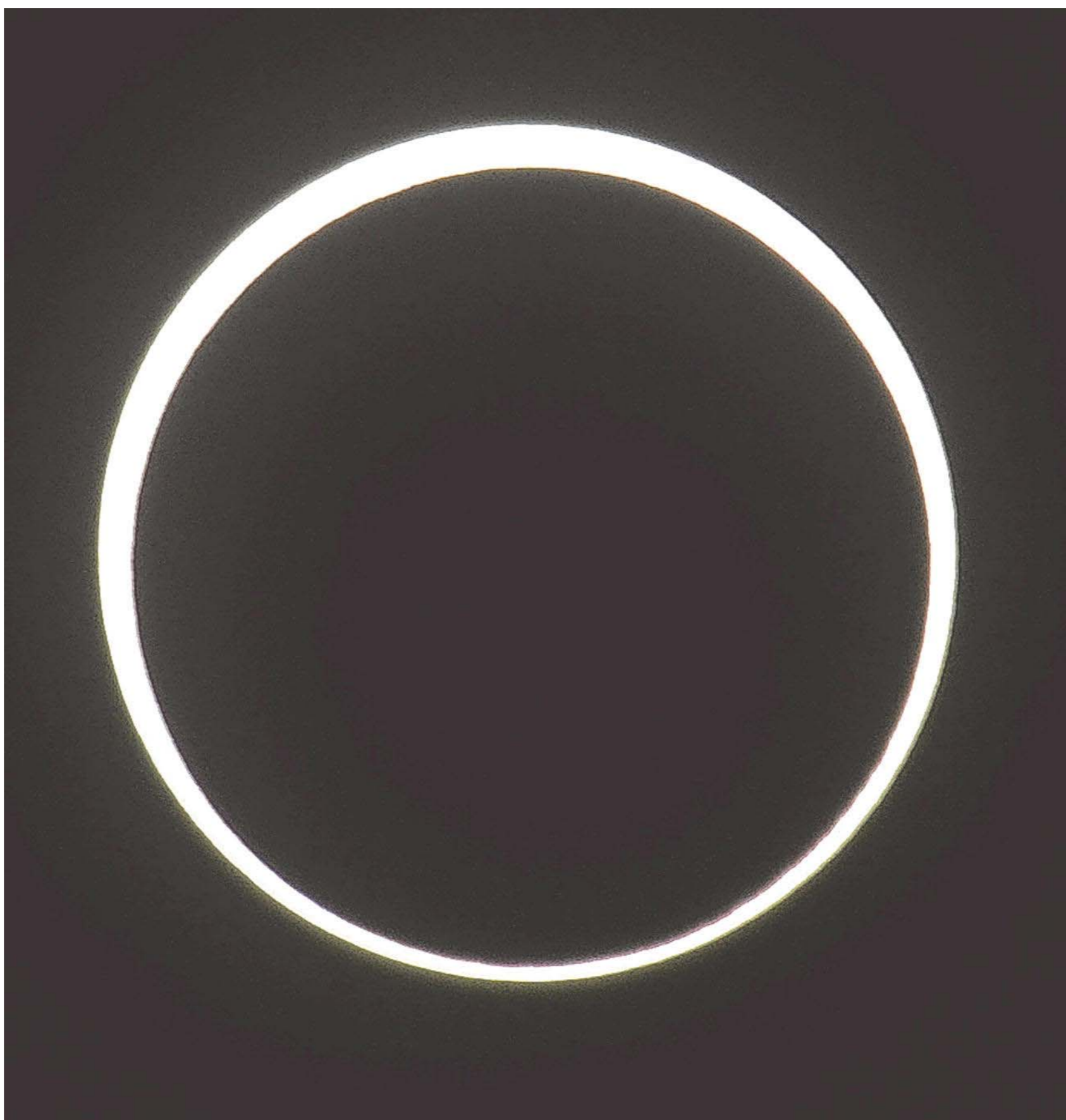




# 見えた! 金環日食

# 173年ぶり天文ショー



太平洋側を中心とした日本の広い範囲で21日午前7時半ごろ、太陽の中心部が月に隠され、細いリングのようになる金環日食となった。県内でも午前7時33分ごろから、173年ぶりとなる金環日食が県南部を中心に各地で観察され、多くの県

民が世紀の天文ショーに見入った。高山村の県立ぐんま天文台には早朝から親子連れ約100人が集まった。日食の時間が近づくと、子どもたちは観察用メガネを構えて「臨戦態勢」。太陽がリングのように輝くと、「見え

館林市の向井千秋記念子ども科学館から撮影した金環日食。21日午前7時35分ごろ、見えた」「すごい」と歓声を上げていた。館林市の向井千秋記念子ども科学館でも集まった40人が金環日食の瞬間

を待ちわび、太陽がリング状に輝くと興奮に包まれた。今回の金環日食は、中国南部で始まり香港、台湾、日本を通り北米に至る細い帯状の地域で起きた。日本の次の金環日食は北海道で見られる2030年、それより前の16年には全国で部分日食となる。

そのほか、多くの小中学校が登校時間を早め、校内で日食を楽しんだ。日本の金環日食は1987年の沖縄以来25年ぶりで、今回のように広範囲で起きるのは932年ぶり。九州南部から福島



遮光板で金環日食を見る藤岡第一小学校の児童たち